

林トーク

学内の「演習林」から

リアルな

キャンパス内にある「演習林」は、多様な樹木や植生があり、ここで様々な演習が行われます。入学したばかりの4月には、先生と一緒に皆で山菜狩りを体験。その後は天ぷらにしてと、まずは楽しく森の恵みを堪能するイベントから始まりました。これからこの演習林で基本的な技術と知識を身につけ、2年次から始まる実際の山林の現場での臨地実務実習を楽しみにしています。

実習が始まる。

学生がホッペで
森林業経営学科



佐々木 勇斗

秋田県立横手清陵学院高等学校出身

黒澤 成斗

山口県立山口中央高等学校出身

林業から、「森林業」へ。

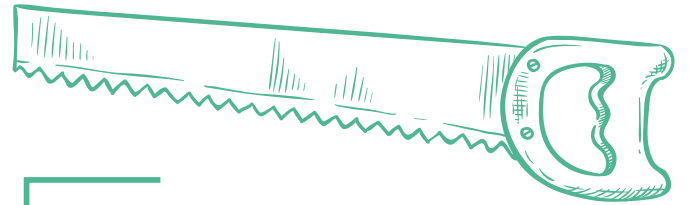
山林の多様な

本学で初めて知った「森林業」という言葉。山林の生み出すビジネスの可能性をより多角的に表すことから「森林業」を掲げていることに納得しました。木材資源の利用が中心だった林業に加え、きのこ、山菜、木炭などの生産、さらに環境保全としての役割、森の癒し効果を活用する健康ビジネス、観光ビジネスなど森林業の可能性は無限です。私たちも新しい時代を意識して、森林と人間のあり方を学び、森林の新しい価値を見出していきたいと思っています。

可能性を学ぶ。



語る！
のここに注目！



スマート林業

が革命を起こす。最新の機器を活用する

近年大型のロボットのような「林業用重機」が各地の山林で活躍し始めています。少人数で山林の手入れから木材の伐採、加工、搬出までが可能になる最新機器を活用することで、森林業経営に私たち若い世代からも注目されつつあります。また広範囲の山林をIT技術を活用して管理する「スマート林業」など、私たちが学ぶ情報化によって、東北や日本の山林が生み出す価値はさらに高まっていくはずと未来に希望を持っています。

森林業経営を学ぶ。



工藤 遼祐
宮城県田尻さくら高等学校出身

齋藤 優大
山形県立村山産業高等学校出身

地域の森林を見つめながら、

私たちは「農山村活性化論」で東北の山林が持つ可能性と、地域の活性化について学んでいます。

地域の山林を長期にわたって維持、管理しながら事業を大きく展開するには世界を意識することも必要なはず。1年次から必修のビジネス英語、「国際森林業論」などでグローバルな視点を身につけることが、将来多様な森林業を展開していく力を育む第一歩になると信じています。

世界のマーケットを
目指して考える。

